

# ゆきぎのみち

日本古神  
道研究会

## ご神示の御歌より

【利益を独占するなかれめぐらせよ】

人は自然の中にあつて、その恵を受け

それを自らの中に巡らし実らせ

その過程においても、周囲にその徳をもたらず

たくさんの実りがあつたからと申して

その果実を自分の中だけで抱え込もうとすると

別の仕事をしている人達の元に届かないだけでなく

それは腐つてしまつて天の恵が生きぬ事となる

その豊かなる恵を周囲に分け与えてこそ

金銭としての収入となることはもちろん

それ以外にも計り知れぬほど自らに帰るものあり

人生、皆同じ

栄耀栄華を極めたかに見えようとも

それを自分の中だけに抱え込んでいる時には

抱え込んだ手の中においてもそれは腐り行く

真の実りは、天の与えしものと人の働きしことの

双方がかみ合つてすばらしきものとなる

天の意に添いて還元する事を心がけよ

果実実らすも、豊かなる大自然の恵みありてこそぞ

人が人の意にて我欲出すは、愚なり

人は自然の中に生まれ、自然によりて育まれ

自然の中で生かされる

これ神の配剤なり

自然と人との巡りは、人の生活は元よりなりわい

人生そのものも天の計りなり

春夏秋冬の巡りの中にも

それぞれの恵与えおろす

今

今は自然をむさぼり、壊し、その恵みを吸い上げるだけ

本来は、人は自然から与えられたものを生かし  
そこより作り成し、その上で自らも自然を守り  
自然に感謝すべきぞ

(何か自然に返すものがあるというような  
感じがいたします)・・

その自然の巡りが大切なる事、人の身体にとって  
神の経みちとしての神経と血潮の巡りが  
大事なる事と同じぞ

天元の恵み

人は一人にして、一人に非ず

個にして、集にあり

互いに寄り添い、

心ひとつにして生み出すものと

自らの奥深きところより

ほとばしり出るものがある

(まだ暗くて良く見えませんでした、

内応というのでしょうか、星が光るような  
場面のようにも感じました)

人の顔に二つと同じものがないのと同じく  
個々の天命も唯一のものぞ

人が人の世に生れいずる時は、一人

まったく時を同じくして生まれ出る人があるうとも  
その両親、環境は、個々別々のものなり

二つと同じ星回りのものはない

双子といえど、数分の差はある

神(光)は、一秒間に地球を七めぐり半すると

伝えた如くに

一秒違っても大いなる差が生じる

ただ両親が同じ、(胎児のときに)共に過ごすゆえ、  
(何か、同じ目に見えない栄養を受けているような  
感覚がありました)

(ここでは、星回りと運勢の謎解きのような何かを  
お明かし頂いているような感覚がありました)

これを会得すると、単なる運勢占いなどは異なる

次元の謎解きが出来るといふような感覚です

・一秒の違いであっても・・)

自らの真価を発揮することなく

光明を見いだす事もなく

暗やみの中で、もがき苦しみ、時には人を恨み

生涯を過ごすは神の意に非ず

人を恨むなかれ、恨む恨まる共に罪

人を軽んずるなかれ

そして自らも卑下するなかれ

人の中にも、己の中にも、光り輝く貴石が

原石としてあることを忘るるなかれ

人がこの世に生を受けしも

この光り見だし生かすためぞ

その石砕くなかれ、曇らすなかれ

如何に厚く覆い包まれていようと

そこよりその光現し世の中に役立たせよ

人に尽くす事を、苦にするなかれ、おごるなかれ

(いかしやくわえという言葉と、

玉串？榊の葉っぱが映りました)

人は、自らのために生きるに非ず

それが天の命じし事なり

個は集にありてその力大きく発するも

集にありては、その核なせるものが必要

核ありて、初めて集の力生きるものなり

核なき時には、単なる寄せ集めの集団に過ぎぬ

大宇宙の真理も、大自然の真理も

また原子電子に至る小きき単位にありても

その核を中心にくぐるものなり

人はその中に生かされ、育まれているものなり

その法則の中にありて、生きるものなり

『神道は弥栄え』と申すは、

常に衆の如くに新たなるものが生まれ出する事をいう

『日本の核は、天皇家にあり』